

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2012年 10月 8日

所属： 教育文化学部／研究科 国際言語文化学科・課程・選修／専攻 1年

氏名：磯谷 匠

派遣先大学名(国) カナダ

在籍身分：学生

派遣期間：2012年9月3日～2012年9月30日

渡航年月日：2012年9月3日

帰国年月日：2012年9月30日

○派遣先大学における授業等の履修状況

(履修した講義名、講義の履修期間、週当たりの講義時間、修得単位数などを確認できる成績表(写)等の添付)

English Language Monthly English, 9/3～9/28, 週4日, 一日3コマ(午前2コマ[1コマ1時間20分]、午後1コマ2時間)

	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	

Handwritten note on the left: 10/11-12 履修集 5/24/12 11 Sun

【以下について、様式任意 1,000字程度】

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

(受講した講義の内容, 留学したことを本学での卒業論文や将来に向けてどう活かしていくか等)

今回、私は 20A というクラスに参加しましたが、主に自分の主張を英語で発言するための講義がメインでした。(どの場面でこの単語は使うのかなど) 基本的にグループを作ってその中で授業の冒頭に先生が言った単語や文法を使って自分の意見を他人に伝えるということをしました。また、映像を使って映像の中で起きていることをパートナーに伝えてその言われた内容をパートナーが書いていく、という講義もありました。

今回 1 か月という短い期間でしたが、この短期留学を通して自分の中で長期留学というものに対しての意欲がさらに増してきていると感じます。実際に海外の大学に通ったことで自分の留学に対する明確な形を持つことができました。まだ自分がどのようなことを海外の大学で学びたいのかははっきりとは見えてはいませんが、今回のビクトリア大学への短期留学で自分が学び、感じ取ってきたことを土台としてこれから長期留学についてじっくりと考えていきたいと思っています。

○生活面について

(現地の学生との交流, 寮・下宿, 食生活, 習慣の違い・マナーなど)

今回はホームステイという形を取らせていただきましたが、ホームステイ先での食事にまず驚きました。基本的に料理は主食となるものとトッピングの野菜のサラダ、他は飲み物といった食事が多く(夕食は基本的にこのような形でした)、日本のように一汁三菜といったようなものではありませんでした。また、とにかく量をいっぱい食べるので毎日夕食後にはお腹がいっぱいでもう何も食べられないといったことが殆どでした。朝食はあまり多くは食べず、大抵シリアルを食べて終わりでした。昼食はホームステイ先の人を作ってくれたものを食べていました。サンドイッチにスナック菓子、果物が入っており、とても健康的な食事でした。他の人の昼食も似たようなものが多かったですが、たまにピザやピラフ、タイカレーなどを食べている人もいました。(カレーを持ってきた人のホームステイ先はタイ人の人がいる家庭でした。昼食にもその人の国籍に関する料理が出てくるのだなと驚いていました。)

カナダに来てから驚いたこととして日中と朝晩の気温の急激な変化が一番こたえました。最大で 18 度くらいの差がある日もあって、服装を選ぶのにとっても苦労しました。朝はとても寒くてセーターやパーカーが無ければ外に出ることができないくらい寒いのに、昼ごろになって日が照ってくると途端に暑くなって半袖でちょうどいいくらいになります。夜はまた冷え込むので厚手の服が手放せなくなり、寒暖の差に体調を崩す人もいました。とにかくとても気温の変化が激しかったこ

とが驚きでした。

○その他留学全般にわたる感想

(写真等があれば添付願います)

今回短期留学でビクトリア大学のプログラムに参加しましたが、私はこのプログラムはたくさんの国籍の方が参加するプログラムだと思っていたのですが、今回はほぼ日本人で構成されていて最初は残念に思いました。せっかく海外に来たのだからたくさんの外国の人と仲良くなってそれぞれの国の話とかを聞けたらいいなと思っていたので日本人が多かったことが残念でした。ですが、みんな意識が高い人たちばかりで自分から積極的に英語を話そうとする人たちばかりで英語力を高めようという気合がひしひしと感じられました。

このプログラムは自分の英語力を伸ばすだけでなく、外国の文化や他のプログラム参加者の英語勉強に対する姿勢など刺激になることがたくさんあります。是非たくさんの方がこのプログラムに応募して自分の見識を広げてほしいと思います。